



左から、鷹野 稔ちゃん、恵祐さん、麻里奈さん、祥大ちゃん、季久美さん

地域の方が本当に優しく、たくさん話し掛けてくれます。地域の方が子供を見てくれている間に、食堂の片付けをす

地域のつながり

盆地特有の気候なんでしょうね。
5年目の今は、日田弁でバリバリ話しています(笑)。また、日田はやっぱり暑い！

日田の暮らし

今は、妻の実家が経営しているタクシー会社と商店の一員として、スクールバスの運行や地域イベントへの出店等、いろいろなことに意欲的に参画しています。また、コロナ禍で地域の交流の場が減ってしまったので、食堂を開いたり、金曜日は焼き鳥屋さんを開いたりして、地域の憩いの場を提供しています。移住してきた当初は、方言が全く分からず、コミュニケーションに苦労しました。移住して5年目の今は、日田弁でバリバリ話しています(笑)。また、日田はやっぱり暑い！

1 | 特集 帰ってきない、暮らしてみない

始めてよかった“ひた暮らし”

移住支援策を活用した県外からの移住者数が、大分県内で6年連続第1位の日田市。今号の特集では、移住者から見た日田の魅力やひた暮らしについて聞きました。

☎ひた暮らし推進室移住促進係 ☎8383 (市役所6階)

平

成30年に大分市から移住した鷹野さん夫婦。今は、2人の子供と妻の父母と一緒に中津江村で暮らしています。そんな鷹野さん家族の「ひた暮らし」を紹介します。

移住したきっかけ

私は生まれ育った沖縄県を出て、大分市に住んでいたときに中津江村出身の妻と出会いました。妻の実家はタクシーやスクールバス運営、市営バスを運行する会社を経営していましたが、社長である義父が体調を崩したことで、その後継者が必要であること、また妻の妊娠が分かったことなどが重なり、妻からの要望で4年前に移住しました。結婚前から、「ゆくゆくは中津江村に帰ろう」と2人で話していたので、私は「いいよ！」とすぐに引越を決めました。地元の方々は、引越前前から私を知ってくれていて、「あなたが末久さん(妻の実家)とこの若大将ね！」とたくさん声を掛けてもらいました。

活用した支援

移住してきた当時、「移住奨励金」という制度があることを知り、ひた暮らし推進室に相談に行きました。職員の人に

することもありませんね。地域で子育てをしてみようというだけでも助かっています。地域の皆さんのおかげでのびのびと生活が送れ、様々なことにチャレンジできるので、とても楽しいです。

移住を考えている人にアドバイス

日田は移住に対する支援が充実しています。私は「もっと早く知っておけばよかった」と思ったこともしばしば…。そのため、移住前にどんな支援があるかチェックしておくことが大事です。それから、住民自治組織や公民館活動などに積極的に参加することも大切。人とのつながりは移住の醍醐味ですよ。

